

ロシア東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551)6215-9
ロシア東欧経済研究所 購読料 送料共前納 ・ 1ヵ月 1,200円 1ヵ年 14,000円

平成7年11月25日

No. 1007

ロシアの銀行が危ない

はじめに

インフレ経済化で隆盛を極めたロシアの商業銀行が今、冬の時代を迎えようとしている。たしかに、ロシアではこれまでも銀行家は最も危険な商売といわれ、銀行とマフィアとの関係が常に取り沙汰されてきた（実際、銀行家の殺人事件は、日常茶飯事といえるほど多発している）。また、銀行の経営のずさんさも指摘されてきた。だが、インフレ経済という時代の趨勢に助けられ、これらの否定的要因がロシアの金融界に深刻な危機をもたらすことはなかった。

だが、インフレ経済から緊縮経済に移行するにつれ、隆盛を誇ったロシアの銀行業界にも陰りがみえはじめ、ついに今年8月にはモスクワの銀行間市場で金融危機が発生した。本稿では、ロシアの新聞・雑誌が伝える情報をもとに、マクロ経済政策と金融危機の因果関係を明らかにするとともに、ロシアの銀行が抱える構造的欠陥を浮き彫りにしたい。さらに、現在経営危機に陥っている商業銀行のいくつかをピックアップし、実際にどの程度まで「経営のずさんさ」という病気がロシアの銀行に蔓延しているのかを検証していきたい。

(ロシア東欧経済研究所 調査役 坂口泉)

金融危機前夜 周知の通り、今年の8月末にモスクワでは、いくつかの中・大手銀行がコール・マネーの返済不能状態に陥ったことをきっかけに、銀行間取引が事実上停止するという、いわゆる金融危機が生じた。今年の春頃より、一部の関係者の間では、このような金融危機の勃発は不可避であるとの見方が強まっていた。ただ、勃発の時期については、夏休み明けの9月以降